



国際ロータリー第2640地区

岩出ロータリークラブ 新世代講演会

報告書



岩出口ロータリークラブ新世代講演会 報告

演題名：「日本人のこころと平和」－国家と文明を担う叡智、勇気そして誇り－

講師：本田悦朗氏（静岡県立大学国際関係学部教授

元財務省大臣官房政策評価審議官）

時期：平成24年10月21日（日） 午後2時～4時

場所：岩出市総合体育館小ホール

入場料：無料

主催：岩出口ロータリークラブ

後援：和歌山県教育庁、岩出市、紀の川市

岩出市教育委員会、紀の川市教育委員会

参加人数：約300名

感想：さわやかな秋晴れのもと、RI2640地区、IM4組ロータリークラブ、後援して頂いた上記の関係各位様のご協力のおかげで、一般市民、高校・大学の生徒・学生、教職員の先生、県教育庁、教育委員会の皆様に多数ご参加いただきました。講演要旨は下記に記載した通り、豊富な経験から世界から見た日本を的確に捉えたすばらしい内容でした。諸外国を理解し、日本人の誇りと希望の持てる日本を再確認し、また、公に尽くす精神、こころの平和、豊かさを多いに学ぶことが出来ました。講演終了後は岩出 RC 青少年交換長期派遣留学生（ブラジル 2011-2012）からの質問もあり、有意義な時間を会場の皆様と共有することが出来ました。今年度 RI テーマ「奉仕を通じて平和」に沿う講演会になったのではないかと思います。終了後は、当日のさわやかな秋晴れのような幸福感を味わうことができました。

講演会要旨

「13年間に亘る海外勤務の中で目の当たりに経験した、チェルノブイリ原発の爆発事故、ソ連邦の崩壊、旧ソ連から独立した中央アジア諸国の国造り及び9・11同時多発テロなどを題材として、いかにグローバル化が進展しようとも、日本人一人一人が、極めてユニークな文明を持つ我が国の歴史と伝統を自覚し、それらを積極的に担うことが、国際社会において堂々たる生き方を貫くために必要であること、また、国際社会において相互に理解し合い、敬意を持つことが国際平和を構築するために極めて重要であるが、その根底には我が国に対する誇りと国際ルールに則った叡智が不可欠であることを語りかける。とりわけ若い学生諸君に対しては、自らを超えた「公の価値」に捧げる生き方が幸福と充実感の源泉であることを説く。」

今日の話

- 「多極化」が進む中で
- 「平和と繁栄」をめざし、
- 「心豊か」に生きるためには、
- 日本という「国家」を基本として
- その「歴史・伝統・文化」を深く理解し
- 困難に打ち勝つ「強い精神と叡智」を養い
- 「日本文明」を愛するとともに、未来を拓く「勇気」を持つことが不可欠

1

自由・民主主義・平和などは普遍的価値である。しかし、その意味・内容に絶対的な基準はない。行動基準を与えるのは、歴史・伝統・文化であり、それらを共有する「国家」こそ、アイデンティティ（自分は何者であるか）の基礎となる。日本は一国で一文明を担うユニークな国家である。日本文明の本質は、常に「こころの中にある神」：誠・和・すがすがしさであり、こころの外にある「戒律」とは違う。一神教のような奇跡・戒律がなくても、一人ひとりの心の中に神が宿る。「日本を愛する」ということは「日本文明を愛する」ということであり、他国の愛国心のように「政治体制」に関わることではない。このことは外国からは理解されにくいことだが、孤独に対する覚悟はできているかどうかである。「正義の平和」を守るためには、国家を守る実力と強い意志が大前提であり、現実の「国際紛争」を解決するためには、国益を守る意思と相互理解が不可欠となる。そのためには、自国の歴史・伝統・文化への誇りと相手国のそれへの理解を示し、過去の世代から将来の世代へ、誇りある国家・社会を継承していくのが現在世代の責務である。

日本文明の継承

- 「和」の精神(17 条憲法)
 - 「和をもって貴しとなし・・・」
 - お互いがその務めを果たしてこそ、心のつながりができる
- 「誠」のころ
 - 神は正直な人間のころに宿る
- 日本の宿命の厳しさとともに誇りを失わず、「日本に生まれてきてよかった」というころを一つにしていきたい

38

「自らにかえりみて縮（なお）くんば、
千万人と雖（いえど）も吾（われ）往かん」
（孟子）

「和と誠のころ」をもてば、少数派であっても勇氣をも
て

岩出口アリーナクラブ
新世代講演会

国家と文明を担う叡智・勇気そして誇り

講師 本田悦朗氏

静岡県立大学国際関係学部教授
元財務省大臣官房政策評価審議官
和歌山県出身

平成24年10月21日(日) 開場13時30分
開演14時

場所 岩出市総合体育館小ホール
主催 岩出口アリーナクラブ
後援 岩出市前本713・F・A・O7360838
岩出市教育委員会・岩出市・紀の川市教育委員会

入場無料

『13年間に亘る海外勤務の中で目の当たりに経験した、チェルノブイリ原発の爆発事故、ソ連邦の崩壊、目撃者から独立した中央アジア諸国の国造り及び9・11同時多発テロなどを題材として、いかにグローバル化が進展しようとも、日本人一人一人が、極めてユニークな文明を持つ我が国の歴史と伝統を自覚し、それらを積極的に担うことが、国際社会において堂々たる生き方を貫くために必要であること、また、国際社会において相互に理解し合い、敬意を持つことが国際平和を構築するために極めて重要であるが、その根底には我が国に対する誇りと国際ルールに則った叡智が不可欠であることを語りかける。とりわけ若い学生諸君に対しては、自らを超えた「公の価値」に捧げる生き方が幸福と充実感の源泉であることを説く。』

(講師紹介)

講師、本田悦朗氏は、当、岩出市出身で、県立橋本高校を卒業された後、昭和53年に東京大学法学部を卒業、同年に大蔵省（現在の財務省）に入省されました。

大蔵省・財務省では、長年、国際的な仕事に従事され、ソ連時代のモスクワで大使館の書記官、ニューヨークでは公使などをつとめられ、昨年まで3年間、国際機関の「欧州復興開発銀行」で日本政府を

代表する「理事」を務めておられました。海外勤務は合計13年間に亘ると伺っております。

国内でも、高松にあります「四国財務局長」のほか、「外務省欧州局審議官」や「財務省大臣官房審議官」など要職をつとめられ、また、多忙の中で、東京大学や香川大学の客員教授とし後進の指導にもあたってこられました。また、本年4月からは、静岡県立大学国際関係学部及び同大学院の「教授」として、教鞭をとっておられます。

本田講師は郷里和歌山の活性化にも大変関心をもっており、最近では、「高野山真言宗財務顧問」にも就任されたと聞いております。

本日は、本田講師の豊富な海外経験や霞が関での経験などをもとに、「日本人のこころと平和」について講演をいただくことになっております。それでは、本田講師、よろしく申し上げます。

2012～2013年度 岩田区
 新世代講演会実行委員会 組織
 開催日：平成24年10月21日（日）



写真

